かけ橋がつながる日へ

聖心ウルスラ学園高等学校一年　平川　綾乃

得能さんの貴重なお話

2日目には高校生や元島人の方のお話を聞いた。13歳まで色丹島で過ごした得能さんの話で私が特に印象に残ったことがある。

まずは北方領土問題は私達やそれよりも若い世代の人が何年かかけて解決すれば良いものではなく、今すぐにでも解決してほしい問題だということだ。元島民の方々はその内ではなく今日にでも明日にでも問題が解決して一刻も早く自分の家に帰ることができるようになることを強く望んでいると感じた。

また北方領土付近の海で漁をしようとして多くの漁師がロシアに拿捕されたことについて、自分たちの島の周りなのに、どうして、、、とおっしゃっていて、その辛さややるせなさが表情や声から伝わってきた。

最後に得能さんは若者に向けた言葉で「北方領土は日本の国土として取り戻さなければならない私達の土地ということを再理解してほしい」とおっしゃっていた。

このような元島民の方々の思いを知り、その思いを伝えていくには私達にどのようなことが必要なのだろうか。北方研の高校生のお話の最後では、講座を聞いた私達は「情報発信者」であると伝えられた。私は情報発信者として最後の得能さんの言葉にあったように、北方領土は日本の私達の土地であり取り戻さなければならないということを伝えていきたいと思った。そのためにこの問題に自分事として向き合うことが大切だと思う。自分のことに置き換えて考え、その思いを汲み取ることで自分事として捉え、発信していきたいと思った。

目の前に見える北方領土の島々

北海道では墓参やホームビジット、ビザなし交流など、現在の北方領土に住んでいるロシアの方々との交流が多く行われている。それらは今、世界情勢によって、実施することが困難になっているそうだ。例えば、私達は当たり前のようにお墓参りに行くことができているが、今はそれができないということだ。自分だったらどうだろうか、自分もそうなっていたかもしれないと考えると考えるだけでも怖かった。

北方館で、北方領土に住んでいるロシアの人々は根室のスーパーなどに買い物に来ることができるけれど、日本から北方領土に行くことが今は難しい状況になっていると聞いたとき、両者に差があるように感じた。

納沙布岬では海に止まっていた船からおそらく中間ラインだろうという場所が分かった。納沙布岬から貝殻島までの距離は3,7km、北方領土と北海道との中間ラインは北海道から1,8kmの距離にある。そう聞いていたが、想像を超える近さだった。距離が本当に近く、すぐそこに島が見える。そのことから余計に向こう側へいけないことの悔しさを感じた。

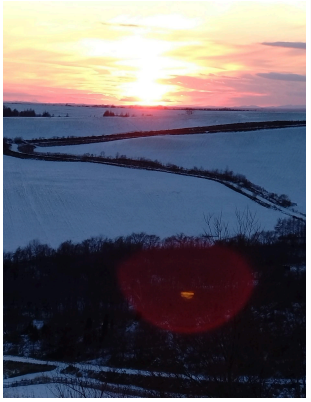
得能さんが北方四島との交流を続けることが返還の第一歩だとおっしゃっていたように、何年もかけて交流を続けてきたことが今はできなくなってしまっていること。その悔しい思いが、時計の針が30年以上前に戻ったようだとおっしゃった根室市長の言葉から感じた。長い間根室市の市長として北方領土問題に関わってきたからこその言葉だと思った。

日本の広さを感じさせる夕焼け

どこを見ても山がなくあちこちで雪が積もっている北海道。
そんな北海道で一番印象深かったのは日が落ちる早さだ。根室は日本最東端の街であり研修一日目の日の入りは15時47分と気がつくとすぐに真っ暗になった。完全に日が落ちた時間も16時半頃であったので夜が長く感じられ、外の景色と時間の差に驚いた。

また日の出が早く、冬なのにいつも私が起きる時間にはすでに空がうっすらと明るくなっていた。漁港で見た朝日が赤々としていて眩しくてとてもきれいだった。

さらに固定式視線誘導柱や街なかで見かける北方領土についての看板やポスター、昆布漁用の赤い線の描かれた船、道路の横にいる動物など北海道ならではのものも多く見られた。



(一日目の開陽台展望台から見えた夕日)→

研修感想

私は、この現地視察に行くまではこの問題を遠い国のことのように考えていて、知識として知っていてもきちんと理解はしていなかったような気がする。しかし、実際に現地の方の講話を聞いたり、施設に行って資料を見たり、北方領土との距離を実感したりという経験で、これは自分の国で今起こっている事なのだと深く感じることができた。

元島民の方は、自分たちが島を追われた苦しみを今、北方領土に住んでいる方にもさせることはできないとおっしゃっていた。そのため両者が納得できる解決策を見つけていきたいと思う。現在元島民の方の数は約5000人で、平均年齢も87,5歳と昔の北方領土を知る方が少なくなってきているという現状があり、まずは多くの人にこの問題へ関心を持ってもらえるように広めていく事が必要だと考えた。

まだまだこの問題を知り、日本全体の問題だと考える人は多くないのではないかと思う。実際、私は作文のために調べたり講座で話を聞いたりするまで北方領土返還に向けた様々な活動が行われていることを知らなかった。また多くの人や団体がSNSを使って発信している事も初めて知った。さらに北海道では街の中に沢山の看板が見られたが、私の周りでは見たことがない。

よって私達が情報発信者として、この研修で学んだことを家族や友人、周りの人へと伝えていくことがこの問題を広めることに繋がるのではないかと考える。